

命を預かる 大きな責任を自覚し、 子どもの成長をサポート

大日方さんは、人間成長にとって重要な意味を持つ幼児期を支える仕事に携わりたいと保育士を志しました。現在は保育園の園長を務め、よりよい保育環境の実現を目指し奮闘しています。

● 朝霞どろんこ保育園 園長(保育士) 大日方亮子さん

おおひなた・りょうこ ● 東京都生まれ。短大卒業後、保育関係の専門学校に進み、保育士となる。幼稚園教諭を経て、(株)ゴーエストが運営する自然体験型保育園「メリー★ボピンズ」に保育士として勤務。後に同社の関連企業である社会福祉法人どろんこ会が運営する「朝霞どろんこ保育園」開設と同時に園長に就任。その後、出産休暇を経て復職。



人間の成長にとって
大切な幼児期に関わりたい

—— 短大卒業後、保育関係の専門学校に進み、卒業と同時に保育士の資格を取得されていらっしゃいますね。どんな思いから保育の仕事に携わりたいと考えられたのですか。

大日方 短大では保育とは直接に関係ない学科で学びました。しかしもともと保育の仕事に就きたかったので、専門的な知識を身につけようと専門学校に進んだわけです。

なぜ保育の仕事に就きたかったかといえば、人間が成長する上で最も大切な時期である幼児期に関わりたいたと考えたからです。自分が関わることで、その子どもたちのよりよい成長を少しでも手助けできたら…そんな思いがありましたね。

子どもたちがいつそう楽しくなる
ように工夫を重ねる

—— 専門学校で学べたことが実際のお仕事に役立ちましたか。また、ギャップのようなものはありませんでしたか。

大日方 専門学校で学んだことで役立つたのは、子どもたちの前で歌うとか、あるいは絵本を読むとかといった保育技術ですね。子どもたちの興味を呼び起こし、楽しんでもらえるにはどんなことが大切かを習得できたのは、

保育士として仕事を進めていく上で大きな収穫だったと思います。

ギャップもありました。当たり前のことですが、机の上で教科書で学んだ内容と自分の目の前にいる子どもとは全く違います。一人ひとりが個性を持ち、日によって体調も違う。それぞれに見合った接し方が必要です。またお子様を私たちに託して下さる保護者様への対応もとても大切です。学校で学んだ知識だけでは、そうしたことに十分に対処するのは難しい。

仕事を通し、経験を積む中でより適切な対処法が培われてきます。経験が自分を成長させる…これは保育に限らず、どんな仕事にも言えることなのではないでしょうか。

—— 「朝霞どろんこ保育園」では保育士はどんなお仕事をするのか、教えてください。

大日方 私たちは「『にんげん力』を育てる保育園」を目標としています。その一環として野外体験を重視し、毎日子どもたちを連れてどろんこ農園で、いっしょに畑仕事をします。収穫物を



朝霞どろんこ保育園の園舎。園庭には遊具を置かず、小高い山を設けるなど、子どもたちが自分で遊びをつくりだすことを目指す。

使って料理もします。

またコミュニケーション力を培うため、園外ですれ違った人とは挨拶を交わすことを約束し、商店街ツアーなどを企画して地域の人々との交流にも力を入れています。

園庭には遊具を置かず、自分たちで遊びをつくりだすことに重点を置いています。このとき保育士は「遊びのリーダー」となり、実際に遊び方を見せることで、子どもたちの遊び方を引き出すようにしています。もちろん歌を歌うこともあれば、絵本を読み聞かせたり、体操をすることも。ほかに

も排泄の介助など、子どもたちの身の周りの世話もします。

さらに保護者様との情報の交換も重要だと考えています。例えば、保育士はお子様をお預かりするとき、その日の朝のお子様の様子を伺い、体調を確認します。またお迎えに来られたときは、園での様子をお伝えします。

子どもたちが帰ったら清掃と明日の準備をし、季節に応じた飾りつけなどを行います。ほかに書類の作成などもあります。

——お仕事の中ではどんなことを心がけていらっしゃいますか。

大日方 子どもたちがケガなどしないように、細心の注意を払うことは言うまでもありません。子どもたちが「明日も保育園に来たいな」とあるいは「保育園は楽しい」と思ってくれるような環境をつくりたいと常々考えています。

そのために、さまざまな遊びや畑仕事などの中で楽しんでもらえるような工夫をします。またどんな飾りつけをしたら楽しんでもらえるのか、行事をいつそう盛り上げるにはどうすればよいかなど、思いをめぐらします。

成長する子どもたちに 間近で接する喜び

——お仕事のやりがいとはどんなところにあるのでしょうか。

大日方 日々、成長する子どもたちの



朝霞どろんこ保育園では、子どもたちが生き物と接することが重要だと考え、ヤギを飼っている。園児たちは餌やりなど動物の世話をする。

姿に接することができるということですね。本当に子どもたちは、1日1日成長するのです。昨日のAちゃんは今日のAちゃんではありません。例えば、昨日、鉛筆を持てなかった子どもが、今日は鉛筆を手にして何かを書くことができる。お座りができなかった子どもがきちんとできるようになる。そのような成長は数え上げたらきりがありません。

そついつ子どもたちの成長する姿を見たとき、人間にとってきわめて大切な時期を託されたという責任感を改め

て自覚するとともに、この仕事のやりがいと喜びを感じます。

——厳しさはどんなところにあるのでしょうか。

大日方 厳しさというよりも気になっていることなのですが…。近年、青少年の犯罪が目立ちます。そつしたニュースを目にするにつけ、お預かりしている子どもたちが健やかに育ってくれることをいつそう強く願わずにはいられません。そのために私たち保育士はどんなことができるのか、考えさせられます。

保育士と母親の2つの視線で 子どもを見守る

——ご出産の後、育児休暇を取られて復職されたと同いました。今の日本では出産を契機に仕事を辞める女性が多くありません。復職にはどんな思いがあったのですか。

大日方 確かに出産をきっかけに仕事を辞める女性が少なくないのは事実でしょう。しかし、一方で結婚や出産の後も女性がキャリアを積むことは大切であるという認識は広まっているので

はないでしょうか。

私は、この保育園の開設以来園長を務めてきました。その間、保護者の方々からはさまざまなご意見をいただき、よりよい保育園をつくることと努力してきました。これからもうそつすばらしい保育園をつくる責任があります。何よりもお預かりした子どもたちを見守る責任があります。

——母親となられ、仕事に対する意識に変化はありますか。

大日方 これまでは保育士としてプロの目線で子どもたちに接してきました。しかし母親となり、お母さんの立場がよくわかるようになりました。それからはプロの目線に加えて母親の目線で子どもたちを見ることができるようになったと思います。

——保育士を目指す若者にアドバイスをお願いします。

大日方 保育士とは命を預かる職業なのだという意識をしつかり持つていただきたいと思います。同時に今後社会を担っていく子どもたちが、人間として成長するのにきわめて大切な時期を託されたことに対する大きな責任を自覚していただきたいですね。

そして実際の仕事では、子どもたちが自らの生きる力を育んでいけるようなサポートをぜひお願いしたいと思います。